

秋に読書はいかがですか

夏の暑さも和らぎ、過ごしやすい秋がやってきました。「スポーツの秋」「食欲の秋」と秋は様々な行動に適した季節です。そのひとつ「読書の秋」について今回はみてみたいと思います。

文部科学省では、社会教育施設の現状について調べる「社会教育調査」を、3年に1度実施しています。その中で図書館の現状についても調査しています。

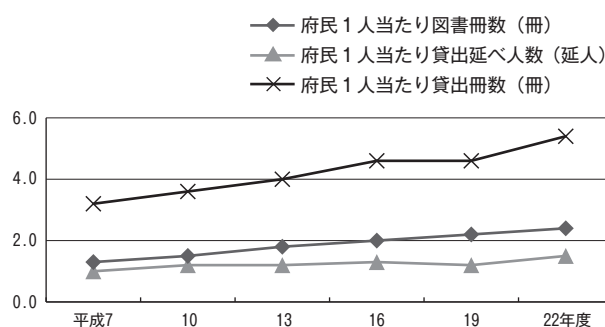
京都府の図書館は平成8年では50館でしたが、平成23年には69館と増加しています。表1は、図書冊数と貸出延べ人数、貸出冊数について表したものです。図2はそれらを府民1人当たり計算したものをグラフで表してみました。貸出延べ人数は、減少した年もありましたがおおむね増加傾向にあるようです。特に貸出冊数については増加しており、図書館利用の意識は高くなっているようです。

表1 図書館利用状況

	図書冊数 (冊)	貸出延べ人数 (延人)	貸出冊数 (冊)
7年度	3,449,105	2,662,444	8,494,519
10年度	4,013,915	3,140,014	9,633,605
13年度	4,807,601	3,153,938	10,712,122
16年度	5,301,882	3,336,339	12,101,416
19年度	5,681,211	3,146,684	12,167,164
22年度	6,224,045	3,845,562	14,256,525

出典：社会教育調査（文部科学省）

図2 府民1人当たり図書館利用状況

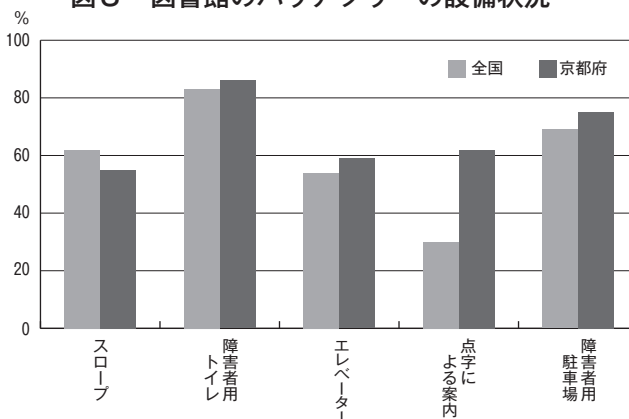


出典：社会教育調査（文部科学省）

では、図書館の設備は利用者しやすいものになっているのでしょうか。図3は、バリアフリーの設備状況を全国と京都府で比較したものです。スロープについては全国より低い設置状況ですが、他の項目は全国より高い設置状況となっています。人に優しい施設が多くなっているようです。

秋はだんだん日も短くなり、早い時間から屋内で過ごすこともあるかと思います。そんなときには、読書のひとときを過ごすのもよいのではないのでしょうか。

図3 図書館のバリアフリーの設備状況



出典：社会教育調査（文部科学省）